

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：32518

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12554

研究課題名(和文)主催者意識及び立地環境をパラメーターとしたオープンガーデンの観光基盤モデルの完成

研究課題名(英文) A suggestion for classifying open garden activities in Japan as a community-based tourism resource --Based on the survey of organizers' awareness

研究代表者

土屋 薫 (Tsuchiya, Kaoru)

江戸川大学・社会学部・教授

研究者番号：60227428

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：アンケート調査の結果、オープンガーデンの主催者は、趣味縁を通じたコミュニティの拡がりや深化を求める一方、類型を超えて、趣味を通じて地域へのコミットを求める思いのあることがわかった。また空間解析の結果、顕著な観光資源を持たないオープンガーデンでは、庭同士の距離が2000mを超えると凝集しないことがわかった。したがって、着地型観光のモデルとしては、観光を中心とした地域資源との連携・連動の形について、具体的に検討していくことがポイントとなる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本のオープンガーデンは、先進事例から主催者別に3つに類型化できることがわかっており、庭の継続的公開に関する諸課題に対して系統的に対処できる要素として有効性が確認されていたが、データの観点から妥当性と信頼性が十分に検証されていなかった。本研究は、全国のオープンガーデン主催者を対象としたアンケート調査から理論モデルを検証するとともに、空間解析を実施することで、観光を中心とした地域資源との連携・連動のための具体的な分布の指標を導き出した。

研究成果の概要(英文)：From a result of the survey, the hosts of the open garden in Japan tend to commit to not only their green community but also the local society they have settled themselves. However, in order to keep holding the open garden activity under like the covid-19 situation, they need to have the mind of communicating with others without suffering it. And then judging from the spatial analysis results, in the case of "ordinary" cities that have no community resources for tourist, every garden, 2 kilometers or more apart from each other, is distributed in a random order. Therefore we should motivate the hosts of the open garden to welcome visitors for managing an open garden activity in Japan. That means we should seek the way of co-operation for visitors and residents, as they could handle tourism resources in their area together.

研究分野：レジャー社会学

キーワード：観光資源 交流人口 持続可能性 着地型観光

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本におけるオープンガーデンに関する研究は、「私的な空間である庭園」を開放することによる空間の「公共性」を分析軸として、造園学や都市計画の分野で展開されてきた。ただその後も、経済波及効果や主催する市民団体・行政の役割等の記述的研究が中心で、庭を公開する理由や公開を継続する要因といったオーナーの特性自体に関する研究は少ない。

またオープンガーデンは、いわゆる観光地ではない一般の住宅街に交流人口や関係人口を創出している。したがって、公開するオーナーの都合でプログラムが組み立てられている。その点で着地型観光の資源として着目できる。しかしながら、逆に経済活動の入り込む余地が乏しいため、観光DMO(Destination Management Organization)を対象とするような地域の利益享受者の合意形成に関わる研究対象からは除外せざるを得ない。その意味で、庭のオーナーの参加動機や公開する場をオーガナイズする運営側の視点から分析する重要性が浮かび上がってきた。

### 2. 研究の目的

本研究は、先進事例によって明らかにされた日本のオープンガーデンの類型を、主催者の意識と開催地の空間特性というデータに基づいて全国規模で実証し、理論モデルを完成させることを目的とする。

### 3. 研究の方法

複数年にわたる新型コロナウイルス感染の拡大状況を踏まえて、公開開始年や公開件数等を考慮したオープンガーデンの主催者を選定し、現地へ赴き、文献調査では明らかにできない、主催者の意識に関するヒアリング調査を行うとともに、運営主体を明記している国土交通省の資料を元に web 検索の情報を加えて整理した全国のオープンガーデン主催者を対象にしたアンケート調査を行った。

またオープンガーデンにおける空間相互作用モデルを解明する上で、既存の観光資源の多寡が影響を及ぼすかどうか検討する上で、最寄り駅からの直線距離、他庭との近接距離、K 関数法によるパターン分析を用いて、地図プロットによる 2 群比較を行った。

### 4. 研究成果

先行研究により 2016 年現在の全国のオープンガーデン主催者を調査対象母集団としたが、120 件のうち 19 件は調査時点で郵送先不明であったため送付できなかった。調査時期は 2021 年 10 月 20 日～11 月 6 日で、郵送配布・回収による自己記入式アンケート調査として実施した。有効回答数は 55 (回収率 45.8%) であった。

回答の状況を見ると、47 都道府県のうち回答があったのは 34 都道府県 (埼玉 15/16、兵庫 8/16、愛知 6/8、東京 5/5、群馬 5/5、長野 5/5、静岡 5/6) と南関東の回答率が高く、クロス集計では地域差は出なかった。また、オープンガーデンの主催者は趣味縁を通じたコミュニティの拡がりや深化を求める一方、趣味を通じて地域にコミットしていこうという思いを持っており、そこが類型を超えた共通の要素であることがわかった。

さらに、地図プロットによる 2 群比較では、観光資源が多くない住宅地の流山市 (千葉県) では、オープンガーデン同士の距離が 2000m まではクラスタ(凝集)のパターンを示したが、2000m を超えるとランダムになることがわかった (図 1、図 2、図 3)。それに比べて明治期よりの邸園といった観光資源に事欠かない大磯では、いずれの距離においてもクラスタ(凝集)のパターンが示されている (図 4、図 5、図 6)。

この結果は、交流の起点となる公開する各庭の位置について、庭同士の分布と既存の観光資源から定位することで、訪問者とのマッチングを適正化して、交流人口・関係人口を供給する安定した観光資源の基盤として整備することが可能になることを意味する。

図 1. ながれやまオープンガーデン公開庭の分布

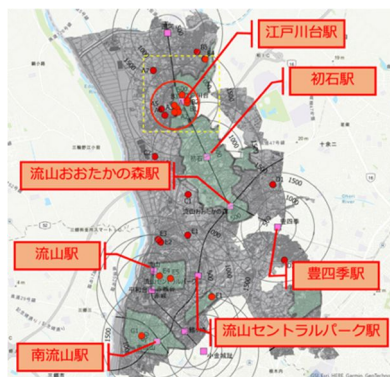


図 2 . ながれやまオープンガーデンの散布図

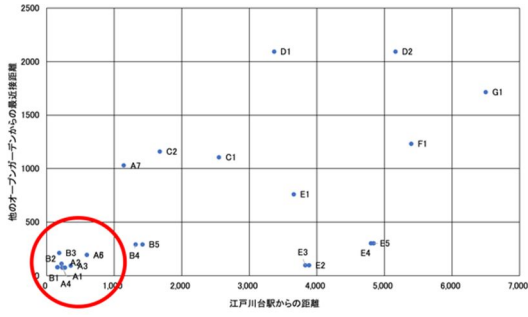


図 3 . 流山における各庭の凝集性

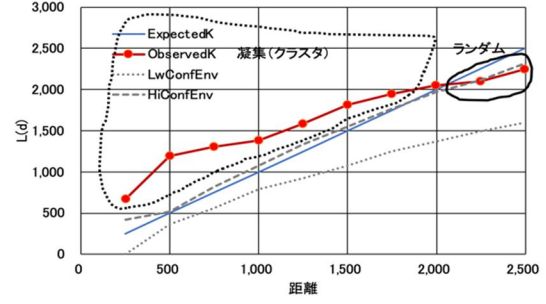


図 4 . 大磯オープンガーデン公開庭の分布

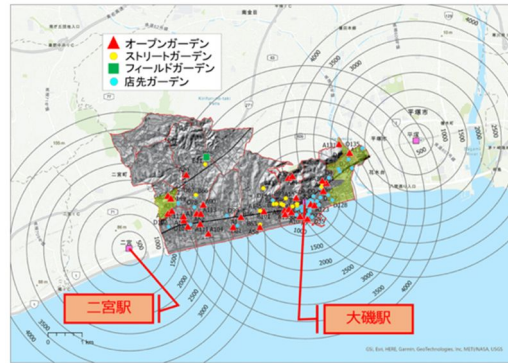


図 5 . 大磯オープンガーデン全体の散布図

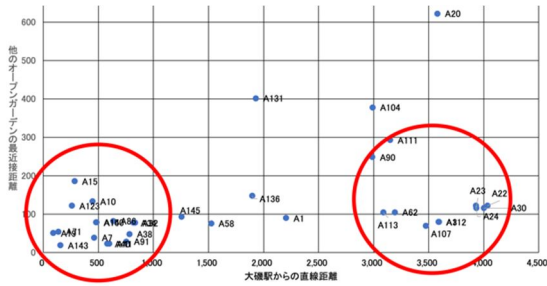
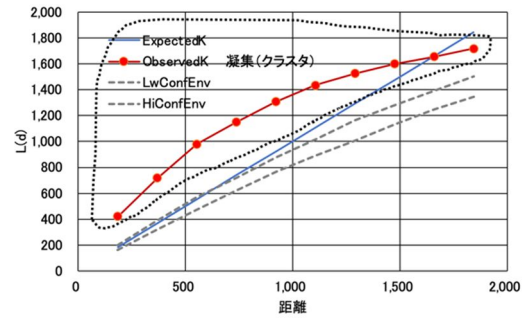


図 6 . 大磯における各庭の凝集性



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 土屋薫・崎本武志・林香織・下嶋聖	4. 巻 33
2. 論文標題 オープンガーデンのマネジメントに関する考察 ホスピタリティ・マネジメントの事例研究として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 HOSPITALITY	6. 最初と最後の頁 75-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 土屋 薫, 林 香織, 崎本 武志	4. 巻 32
2. 論文標題 オープンガーデン活動の位置づけに関する考察 コミュニティ意識とライフスタイルの現在	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 55-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50831/00001036	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 林 香織, 土屋 薫, 崎本 武志	4. 巻 32
2. 論文標題 オープンガーデン主催者の意識が, 運営に与える影響 主催者への意識調査結果から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 223-235
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50831/00001050	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 崎本 武志, 土屋 薫, 林 香織	4. 巻 32
2. 論文標題 オープンガーデンとツーリズムとの関係性の理論的検討 コミュニティ・ベースド・ツーリズムの視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50831/00001035	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福田一葉・下嶋聖・町田玲子・土屋薫・竹内将俊	4. 巻 85(5)
2. 論文標題 GISを用いた立地環境特性に基づくビジターセンターの類別化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 475-480
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5632/jila.85.475	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下嶋聖,前田航希,町田玲子,朴鍾杰,土屋薫	4. 巻 35
2. 論文標題 里山フットパスを対象としたWeb-ARを用いたセルフガイドアプリの開発と評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 環境情報科学学術研究論文集	6. 最初と最後の頁 298-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11492/ceispapers.ceis35.0_298	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 土屋 薫、林香織、崎本武志	4. 巻 31
2. 論文標題 ウィズコロナ/アフターコロナ時代のオープンガーデンのあり方に関する研究 関東エリアにおけるオープンガーデンを事例にして	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 73-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50831/00000967	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林香織	4. 巻 31
2. 論文標題 コロナ禍におけるオープンガーデンの開催状況 主催者からの情報発信と今後の展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 211-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50831/00000975	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 土屋薫、林香織、崎本武志	4. 巻 30
2. 論文標題 オープンガーデンの継続的運営における諸課題――関東エリアのインタビュー調査をもとに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 365-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林香織、鈴木ひかり、福井ひなの、高橋未帆	4. 巻 30
2. 論文標題 日本におけるオープンガーデン史と情報発信方法の比較研究――30の事例をもとに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 135-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 崎本武志	4. 巻 30
2. 論文標題 JR発足30年における地域鉄道の活性化と観光課に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 79-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 土屋薫、須賀由紀子	4. 巻 30
2. 論文標題 社会関係資本形成に向けたワークショップ技法に関する研究――まちあるきプログラムづくりにおける評 定尺度抽出の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 365-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 土屋薫・崎本武志・林香織・下嶋聖
2. 発表標題 オープンガーデンのマネジメントに関する考察 ホスピタリティ・マネジメントの事例研究として
3. 学会等名 日本ホスピタリティ・マネジメント学会 第30回学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土屋薫・下嶋聖・林香織・崎本武志
2. 発表標題 オープンガーデンの 立地及び空間分布の 特徴について -関東近郊を対象に-
3. 学会等名 日本造園学会北海道大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 下嶋聖・前田航希・土屋薫・町田怜子・朴鍾杰
2. 発表標題 着地型観光利用促進に向けた多摩丘陵フットパスセルフガイドアプリの開発
3. 学会等名 日本レジャー・レクリエーション学会 第49回学会大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 土屋薫,阿南透,大塚良治,川瀬由高,佐藤秀樹編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 222
3. 書名 現場に立つから、おもしろい	

1. 著者名 徳江 順一郎編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 創成社	5. 総ページ数 240
3. 書名 宿泊産業論 ホテルと旅館の事業展開	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	崎本 武志  (Sakimoto Takeshi)  (00468951)	江戸川大学・社会学部・教授   (32518)	
研究分担者	林 香織  (Hayashi Kaori)  (50458676)	江戸川大学・メディアコミュニケーション学部・准教授   (32518)	
研究分担者	下嶋 聖  (Shimojima Hijiri)  (60439883)	東京農業大学・地域環境科学部・准教授   (32658)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------